

第32回（2015年度）若手研究者のための健康科学研究助成受贈者一覧

a. 指定課題（10件）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属	研究テーマ
阿部 巧	筑波大学大学院 人間総合科学研究科	高齢者における座位運動と脳賦活との関連性
鎌田 真光	Harvard Medical School Brigham & Women's Hospital	大規模地域介入による運動の促進は、地域全体の精神的健康の維持・増進につながるか？ —クラスター・ランダム化比較試験—
北 洋輔	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所	子どもの運動の不器用さがメンタルヘルスに与える影響の解明 —メンタルヘルスの悪化予防に向けて—
黄 聡	東北大学大学院 医工学研究科	高齢者における異なる強度の余暇身体活動頻度と抑うつ状態の関連に関する10年間の前向きコホート研究
鄭 松伊	筑波大学 体育系	長期間の運動継続が高齢者の抑うつ（メンタルヘルス）尺度に及ぼす影響 —運動教室終了後の郵送支援によるランダム化比較試験—
諏訪部和也	筑波大学大学院 人間総合科学研究科	—過性の低強度運動が抑うつ気分と海馬歯状回の機能に及ぼす影響 —高解像 f MRIを用いて—
遠又 靖丈	東北大学大学院 医学系研究科	中年期・高齢期の身体活動量変化が認知症発生に寄与するインパクトの解明 —中年期・高齢期の身体活動で日本人の認知症発生の何%が減少しうるか—
西脇 雅人	大阪工業大学 工学部	アクティブガイドにおけるスローガンの実施・達成がメンタルヘルスに及ぼす影響の検討 —“プラス10”の取り組みは認知症やうつ傾向予防に本当に効果的なのか？—
福島 教照	東京医科大学 医学部	地域在住高齢者における身体活動および地域環境と精神不調の新規発症に関するコホート研究
道下 竜馬	産業医科大学 産業生態科学研究科	職場単位で行う短時間集団運動が勤労者の人間関係、気分、労働適応能力、健康度に及ぼす効果

（以上10件、一律100万円を助成。なお、所属は応募時のものを記載）

b. 一般課題（10件）

氏名	所属	研究テーマ
萱場 敦子	東北大学大学院 生命科学研究所	運動による免疫記憶劣化の予防に関する研究
小泉 佳右	千葉大学 教育学部	幼児期における生活リズムを確立するための、身体活動の有効性 —唾液マーカーによる概日リズム評価を用いて—
白土 健	杏林大学 医学部	2型糖尿病マウスにおける慢性炎症反応に対する運動の効果とメカニズム —マクロファージのO-結合型N-アセチルグルコサミンに着目して—
高橋 宏和	Harvard Medical School Joslin Diabetes Center	非アルコール性脂肪肝炎における運動トレーニング誘発性アディポカインの効果検討とメカニズム解析
千木良佑介	高崎健康福祉大学 保健医療学部	虚弱高齢者に対する電気刺激を併用した筋力トレーニングが呼吸機能、運動機能、血管内皮機能に及ぼす影響
土屋 吉史	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科	運動時の環境温度を活かした抗肥満のための運動処方 —褐色脂肪を増加させるマイオカインに着目して—
原田 和弘	国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部	客観的に測定された外出行動が高齢者の身体・心理・認知機能に及ぼす影響とその関連要因
藤田 諒	長崎大学 原爆後障害医療研究所	骨格筋萎縮を制御する新たな分子ターゲットの同定 —骨格筋部位特性に着目して—
山添 正博	滋賀医科大学 アジア疫学研究センター	日常的歩行運動レベルが左心房拡大、心房細動発症に与える影響 —地域住民7年追跡研究—
渡邊 裕也	京都学園大学 健康医療学部	骨格筋超音波画像から算出する筋輝度を用いた骨格筋の質的評価法 —現場で実践可能な筋内組成評価法の確立を目指して—

（以上10件、一律50万円を助成。なお、所属は応募時のものを記載）